

令和7年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ②防災に関する知識と防災を取り入れた暮らし方

- ◆ 今回の研修で、クラブ内の危険箇所を改めてふり回り、具体的な対応策を考えることができた。常に最悪の場合を想定し、日頃から備えることの大切さを実感した。今後は子どもたちを守る立場として、職員同士の連携をさらに深め、いつ起こるか分からない災害に対し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めたいと思う。また、災害時に役立つアプリの紹介もあり、情報収集や判断の手段になると実感した。
- ◆ 子どもを守る「知識」「備え」が大事だと思った。日頃から「練習」「声かけ」「安心づくり」が必須と思う。近々、避難訓練を実施して避難場所や避難経路を確保することに加え、家に帰ってから家庭内でも防災について話し合いをしてもらい、保護者とも連絡が取れない状況のときはどうするか、などを考えてもらうことが大事だと思った。「命の安全確保」が最優先と徹底して指導したいと思います。4月から支援員になり防災については今までは自分と家族のことを考えれば良かったが、支援員として子どもたちのことを考え、災害が起きたときに落ち着いて避難ができるように準備しておきたい。
- ◆ 防災とは備えることではなく、日常に基づく行動、命を守る行動ということを意識し、日々の工夫で子どもたちと今一度考えるよいきっかけとなった。また、職員間でも災害時の対応について話し合う大切さも改めて感じた。ワークショップでは他の児童クラブの方々の視点が面白く、自分では気づけなかったことも知ることができたのでとてもよかった。子どもたちの安全の確保を最優先し、自分も落ち着いて行動ができるようにあらゆることを想定しながら対応していきたい。
- ◆ 災害はどんな場面でもいつでも起きる可能性がある。そのとき被害を小さくするためには日々の意識と工夫が大切である。普段の行動や環境が非常時の「安全」につながる。子どもの命を守るために日頃から災害知識を増やし、リスクに敏感になり、子どもを理解し、支援員同士で役割分担や、どう準備しておくかを話し合っておくことが必要である。支援員として、今日の学びを生かして子どもの「生きる力」を育んでいきたいと思った。
- ◆ 毎月子どもたちと避難訓練をしているが、訓練ということもあり、ふざけてしまうことが多くなってきた。いざという時のために、訓練も大事だが防災について日常的に子どもたちと考えていける工夫をしていきたい。机の下に避難する際は脚をおさえることを子どもたちに伝えていきたい。地震、水害など状況によって対応が変わっていくことを職員たちも把握し、防災用品や食料、水もしっかり用意して万が一のために備えていきたい。